

NEWS LETTER 73

VOL. 73
TAKE FREE



対談企画！卒業生漫画家の日常

Student！解体新書！
竹村 秀和さん

Report！
東京新宿鎮座花園神社大酉祭

Teachers at Work！
伊丹谷 良介 非常勤講師

リレーマンガ
『はらぺこ新宿食い道楽』第八話

HOT TOPICS

News Letter

vol.73

2016年12月1日発行

宝塚大学 東京新宿キャンパス 東京メディア芸術学部 | 大学院 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目11番1号
TEL:03-3367-3411 FAX:03-3367-6761 E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp

なりたいたいわたしに近い大学。

都心のキャンパスだから
発信する場がいっぱい！

社会に 近い。



先生は第一線で活躍する
現役クリエイター

教員に 近い。



各沿線の新宿駅から
歩いてすぐ

新宿駅に 近い。



各沿線
新宿駅から
徒歩約5分！

学びの特徴

現役クリエイターによる指導のもと、領域の枠を超えて学べるカリキュラムで一人ひとりに合わせた学びを実現！

POINT 1

現場で活きる教育を実践
先生=クリエイター

POINT 2

+αの学びが力になる
選べるカリキュラム

POINT 3

きめ細やかな対応が可能
少人数制の授業

進学 相談会

2017 1/28(土) | 2/18(土) [時間] 13:00 > 16:00

入試やキャンパスライフなど、様々な質問にお答えします。
ぜひお気軽にご参加ください。



ACCESS アクセス



- JR「新宿」駅(西口)から徒歩約5分
- 都営大江戸線「新宿西口」駅から徒歩約3分
- 地下鉄丸ノ内線「新宿」駅から徒歩約4分
- 西武新宿線「西武新宿」駅から徒歩約4分
- 小田急線「新宿」駅から徒歩約5分
- 京王線「新宿」駅から徒歩約5分
- 都営新宿線「新宿」駅から徒歩約5分



対談企画！ 卒業生漫画家の日常。

マンガ領域を卒業したおふたり。現在、漫画家として活動している清水幸詩郎とナンキダイの対談企画。



ナンキダイ × 清水幸詩郎

第一回ワールドマンガコンテスト 大賞受賞
マガジンR創刊号より『まじめ系クズの日常』にて
商業誌デビュー

月刊少年シリウス『2×BONE』(全三巻発売中)
にてデビュー。
無料のWEBコミックCOMICポラリスにて、
読切『五葉さんちのきわめくん』公開中。
現在、新連載に向け準備中。

子供の頃から漫画家になりたかったのですか？

ナンキダイ(以下ナ)：小学校の作文には漫画家になりた
いと思ってましたね。それしかないんじゃないかなあつ
て。清水さんは？

清水幸詩郎(以下清水)：あたしも普通のサラリーマンに
はなれないと思ってました笑。早々に歩む道を見つけた
かな、と本気で思っていましたね。

ナ：すごいわかります、それ。敷かれたレールを歩くのが
嫌、とかじゃなくて、なにか見つけないと死ぬかもって
笑。たくさん選択肢がある中から選ぶなんておこがまし
い。漫画を描いていかないと。

清水：就職して働いてイメージがなくて、漫画家が小
説家になろうと思ってました。だから、小学生のときか
ら小説を書いて出版社のコンペみたいのに投稿したり、
漫画は中学生のときに投稿していましたね。

ナ：すごい早い時期から描いていたんですね。短編漫
画ってほしい32ページとかじゃないですか？ それを描
きあげたってすごくないですか？

清水：ページ数とか覚えてないけど。好きだったらいく
らでも描けちゃうし。しかも、周りから褒められたりし
たら、中学生のときとかって調子乗っちゃうじゃないで
すか笑。投稿した作品が期待賞をとって、それから漫画
家になるんだって気持ちが強くなりましたね。

ナ：そうなんです。ぼくはバスケット部に所属してたん
ですが、部活がきつすぎて不登校になった時期があったん
です。そのときに家で漫画を描きまくっていたのがよ
かったです。漫画家になるしかない、ってまた思いまし
たもん。

漫画家って、その簡単になれるものではないですか？

ナ：とにかく描いて、漫画編集者に持ち込みするのを繰
り返していれば、いつか届くと思うんですけどね。あと
は媒体を選ばないというか、自分の作品を掲載してくれ
るところを探して、載ってしまえば漫画家ですから。

学生のときにやっておいた方がいいことは？

清水：あたしは学生生活を順風満帆に過ごせたかとい
えば、そうじゃなかった。もって楽しんでよかったな
あって、真面目に漫画を描き続けて、卒業したら漫画
家じゃないわけだから、学生時代から連載を持ってい
ようと思ってました。だから出版社への持ち込みと
か、同人誌をつくって活動したりしてました。本気で
漫画家になりたかったら、学生時代から漫画家になる
ことですよ。

ナ：描くだけで終わるんじゃないって、誰かに見てもら
うことが大切です。持ち込みは確かに緊張しまし
けど、当たってナンボの世界ですから。描いて出して、
また描いての繰り返し。

清水：大学卒業前にみんな「就職活動」ってするじゃな
いですか。漫画家にとつての就職活動は持ち込みです
から。そこで連載が決まって、漫画家としてデビュ
ーする。漫画家になりたい人は、漫画家になるための就
職活動が必要だと思っんです。

ナ：漫画家になるための就職活動！ それ、いいですね！



清水：ほんとそう。ジャンプが好きな人はジャンプし
か見てないと思うんですよ。そりゃ少年誌で一番人気
ですから掲載されるのは至難の技だと思います。で
も、ジャンプだけに盲目になって漫画を描き続けるの
は違うのかなって。

ナ：中学や高校のときに漫画家になりたいって思った
ときに、自分が読んでいる漫画雑誌ってジャンプとか
マガジンとかチャンピオンくらいじゃないですか。そ
こだけしか見てないっていうのは、当手を振り返ると
仕方ないんですけど狭い世界ですよ。今はネットで
も漫画媒体がたくさんありますから。

清水：ありますよね。マガジンだけでも、なんとかマガ
ジンってたくさんあるし。ネットでの投稿型媒体も含
めたら相当数ありますもん。

ナ：ある意味、自分の作品が世に出やすくなったのは
知ってる通りです。漫画家にとってはライバルが増え
たわけですから、いいことも悪いこともありそうす
ね。

最近の漫画事情を教えてください。

ナ：時代によってヒーローものとかいろいろありま
すけど、キャラクター設定とかも変わってきたんじゃない
ですかね。今は料理漫画が流行っていたり。子供が
減った分、大人が読む漫画が増えたんじゃないかな。

清水：昔は筋肉隆々のごつつい人が主人公で強かつた
んだけど、今はスマートで知的で、でも最強！ みたい
なのが主人公になったりしています。

ナ：ぼくが描いている漫画も「日常系」といわれるも
ので、まさに現実社会にありそうな話なんです。
ちよっと前までは日常系ってなかったんじゃないか
な。

清水：あたし自身、漫画をあまり読まないのが正確な
ことは言えませんが笑

ナ：えっ！ 読まないんですね！ ぼくもです笑。その代
わりテレビは観ています。最近だとアメリカのテレビド
ラマ「ウォーキングデッド」とか。

清水：それ、あたしも観てる！ 漫画家はなんでも観た
方がいい。ってこれ方便ですけど、人間のドラマはた
くさん見ていて損はないと思っ。

ナ：ぼくはギャグ漫画だから、バラエティも観ますね。
清水：テレビでも、街中でも人間観察しているとおも
しういですよね。キャラクターでも。なに見ても
おもしろい自分になれたら、いいなあと思っます。

漫画家の1日を教えてください。

ナ：朝起きて、一日中描いていることなんて、ないん
じゃないですか？ まったく描かずに一日終わること
もあります。真面目系クズの漫画を描いてますが、身
から出た錆みたいな作品ですから。仕事もたくさん抱
えていないと、描くことも減りますからね。

清水：雑誌の仕事って締め切りのスパンが早いから追
われて描くことも多いけど、夏休みの宿題みたいに締
め切り間近にパツと描いてます。メリハリがあると
いうより、自分のペースで最終的に追い込まれて描く
という。

ナ：自由といえば自由なんです笑。

清水：漫画家は正直「博打」ですよ。売れるかもわか
らないし、連載や仕事の依頼がずっとあるかって言わ
れたらわかりませんから。だからこそ、売りたい！ と
思って漫画を描いています。いつどこでチャンスが
降ってくるかわからないから。



WORKS

清水幸詩郎さんの
読みきり漫画「五葉さ
んちのきわめくん」が
COMICポラリスに掲載。
[http://comic-polaris.jp/
kiwame/](http://comic-polaris.jp/kiwame/)



ナンキダイさんの漫画
『まじめ系クズの日常』単
行本第二巻が講談社から
発売。同作品は講談社の隔
月刊漫画雑誌『マガジンR』
で現在も連載中の「まじめ
系クズ」が主人公のギャグ
漫画です。



Student! 解体新書!

東京メディア芸術学部^に在学中の学生に突撃取材する企画!
学生のリアルな生活、好きなもの、こと、持ち物まで赤裸々に公開します!

たけむらしゅうわ 竹村秀和

1995年生まれ。埼玉県川口市出身。
浦和学院高等学校卒業。
アニメーション領域3年生。
幼少期から絵を描き始め、小中と運動部に属しながらさまざまなキャラクターの絵を模写。高校では3年間美術部に所属し、油絵を経験。
趣味は特撮と映画鑑賞。



↑いつも持ち歩いている命の次に大事な物。
ウルトラマン50周年おめでとう!



↑作業するときの鉛筆たち。
これなくしてアニメは作れません。



↑書類など大事な物を入れるためのお気に入りの
MARVEL HEROSファイル。



→全てのスケジュールがここに、
僕のすべてが……ここにつ!



↑最近愛読している漫画の内の2冊。
1番のオススメは「からかい上手の高木さん」。

時間さえあれば、絵を描く少年だった

小さい頃から、部屋の隅っこでひたすら絵を描いている子でした。特撮が大好きで、ウルトラマンとか仮面ライダーをずっと描いていました。実家には5冊ぐらいその絵だけで埋まったノートがあると思いますよ。少し大きくなってからはアニメにはまって、ずっと観ていました。そこから、実際に見ていたアニメーション映像を絵におこしたらどうなるんだろう?とあってアニメの絵を描き始めたんです。なんとなく今学校で学んでいるようなことを、小さいときからやっていた気がします。

小学校に入っても絵を描くことは止まらなかったです。授業中に描いていて、何度先生にノートを取り上げられたかわかりませんが(笑)。時間があれば描いている人でしたが、友達付き合いは悪くない方ですし、部活もサッカー部に入っていました。仲間と一緒に遊んだりもしましたけど、1人の時間になると絵を描いていました。

本気で絵を描くことと思った高校時代

自分の描いた絵を人に見せることはあんまりしてこなかったです。単純に恥ずかしがり屋というのもあるんですけど。好きで描いていて、他人に見せるものでもなかったですが、ときどき絵を見られて『うまいね』と言われたときは少し嬉しかった。趣味で描いていた絵も、もう少し本気で描いてみようと思って、高校は美術科があるところに進学しました。高校ではサッカー部に入らず美術部に入って、授業でもみっちり絵を描く環境になりました。今まで遊び感覚で描いていたところから、基礎技術と理論を学ぶことに必死でした。油絵を3年描いていましたけど、高校生

から独特な世界観を持っている人とか、刺激を受ける人が多くいましたね。とにかく毎日絵を描いて、基礎体力を身につけた時期だったと思います。

一生の仕事にしたい、アニメーションの仕事

高校卒業が近くなってきて、美大に進むかどうか考えていました。そんなときに宝塚大学のオープンキャンパスに行つて、アニメーションの先生とお話ししたのが印象的でした。プロの現場で働いていて、現在の業界を生々しく知れると思いました。自分が好きな分野を4年間学べる環境というのは専門学校では難しいですし、アニメーションを専攻できる大学も少なかったので宝塚大学に進学したいと思えました。

入学して3年が経とうとしています。授業のほかに先生の仕事のお手伝いをさせていただきました。作画を描く仕事だったので、ずっと憧れていた仕事だったので本当に手が震えました。アニメーションの現場をほんの少し垣間見れて、自分のやりたい仕事が再確認できましたし、なによりも心躍りました。デジタルツールが進化する中、アナログにペンで絵を描くことにこだわりを持っていきますね。



↑アニメーション制作ではよく使われる用紙。
これがアニメだ!



←愛用のトレース台。アニメ制作においては
欠かせない相棒です。明るさが10段階変
わります。



熊手とは

日本では幸運や金運を「かき集める」という意味を込めて、商売繁盛の縁起物として熊手を飾る。また、毎年昨年度の物より大きい物を購入するのが良いといわれています。



狐のお面がずらりと並ぶ↑



美味そうな食べ物の屋台がいっぱい！↑



金魚すくいや射的もあります↓



平成28年度の大酉祭

一の酉前夜祭 11月10日(木)
一の酉本祭 11月11日(金)

二の酉前夜祭 11月22日(火)
二の酉本祭 11月23日(水)

大酉祭とは

花園神社の酉の市は明治時代に始まり、大鳥神社の祭神である日本武尊が東夷征伐の戦勝祈願をし、帰還の時にお礼参りをしたことにちなみ、日本武尊の命日である11月の酉の日に行われるようになりました。商売繁盛の熊手を売る露店商店など毎年大変賑わっております。



Teachers at Work!

東京メディア芸術学部在籍している講師たちを紹介するページ!
学校での活動のほか、外部での仕事が多いのが本学の特徴でもあります。



（ぼく自身、宝塚造形芸術大学・現宝塚大学）大学院を修了してアジアを中心に音楽活動をしていました。多いときは年間300本のライブをやって、テレビ、ラジオ、ライブと目まぐるしい日々を送っていたんです。2007年に帰国し、大学・大学院時代の同級生である渡邊くん（現宝塚大学東京メディア芸術学部准教授）に声をかけていただき、週一回『ロックミュージック概論』という授業を担当しています。学生時代はビジュアルデザインコースに所属していましたが、視聴覚分野の勉強をしていて、学生時代から大学と一緒にライブ企画をしたり表現を模索していました。音楽を通じて今までの人生があるように、今の学生の人たちにも音楽の必要性を知ってもらえればと思ってお話ししています。授業内容としては、50年代の音楽シーンから現在までの歴史、カルチャーなど幅広く話しています。『音楽』が必要で、ゲームやアニメ、映像コンテンツでも音楽が欠かせないですよ。そういったジャンルのものづくりに携わっていく人たちは音楽を知っておくことも有利だと思うんです。演奏するまでいなくても、いろいろな音楽があること、音の世界を知ることによって表現の幅が広がっていくと思うんですね。

カテゴリーを徹底的に若いときに極めて、そのあとは多方面に興味を持つていくこと。それはスポーツでもファッションでもなんでもいい。自分が突き詰めた得意なものがあれば、なんでも繋がっていくからです。それはまるでロックンロールのように、ロールしていくんですね。雪だるまみたいなイメージです。実際の授業でも、ぼくの周りにいる友人たちにゲストで来てもらって、音楽と違ったジャンルの方たちのお話ししてもらっています。先日はローリング・ストーンズや数々のアーティストの衣装をデザインしているデザイナーの友人に来てもらいました。実際の衣装を飾って、彼のクリエイションの源泉を聞いたり、音楽との関連性のお話しをしていただきました。授業なのですが、先生と学生と一緒に『研究』している感じ。専門学校と違って大学のいいところは研究できること。ぼく自身も毎回勉強になっています。これからの時代は楽器を持つ変わりに筆を持ったり、マウスを持ってロックスターになる人が増えてくると思います。むしろ、もういるんですね。自分が徹底的にやりこめる『なにか』を見つけて続けることができれば、そのジャンルでのスターになれる。そのきっかけをたくさん提供したいし、学生と一緒に勉強、成長していきたいと思っています。



渋谷芸術祭に出展された作品を審査する様子。
渋谷芸術祭ではコンテンツプロデューサーも務める。



講義での様子。
学生目が変わる「ロックミュージック概論」



ミュージシャン、アーティストとして活動している伊丹谷さん。LIVEの風景。

外部の仕事

い た み や り よ う す け
伊丹谷良介 非常勤講師

Profile

1973年生まれ、大阪出身。
バンド活動をしながら関西を中心に活躍し、1998年に宝塚造形芸術大学大学院修士課程を修了。バンド活動を停止させソロアーティストとして作詞作曲業に専念。その後、アジアを中心に年間300本のライブを敢行したり著名人とのコラボも多数企画。
現在HATAKE BANDのヴォーカルとしても活動中。

おまたせ
しました

シ・カルニチンや
チロシンで
ダイエツト
にも効果的ね

待って原ちゃん…
私たちどんどん
美しくなってる…
Purpur

煮込みが
美味だし
季節だねえ
原ちゃん

はらぺこ 新宿食い道楽

第8話



魚のかぶと煮
ですー!!

でかつ!!

…そうね
って、大きすぎ!!

私がコマに
入りきらない
じゃない!!

牛すじ煮込み

おまかせ



原ちゃんまだ
頼んでたの!?

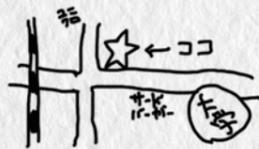
おまたせ
しました
大漁盛りです

お豆腐も味が
染みて
美味しいよ!!

すつごく身が
ふわふわ!!

魚の三是
新宿西口大ガード店

- ・新宿区西新宿1-3-1
サンフラワービルB1
- ・大学から徒歩3分



至福ね

ランチメニュー!
量も多いし
充実してるから
是非来て
ほしいね!



わあい

プルプルだ

量だけじゃ
ないんだよ!!

ひとつが
大きい!!



これとお米で
お腹いっぱいね

牛すじ煮込みって
いうから、これくらい
のを想像してたら…

でしょー
原ちゃんなら
ここ気に入ってくれると
思っ!!

このおみせ? 二年生のペコ
と原ちゃん
が
大学近くの美味しい飲食店を紹介します!



「ASIAGRAPH2016 in Tokyo」会場展示のディレクションを担当

デザイン表現研究室の学生と宝塚大学大学院生が主体となり、経済産業省と財団法人デジタルコンテンツ協会が主催する「デジタルコンテンツ EXPO2016」の一環として開催されたイベント、「ASIAGRAPH 2016 in Tokyo」展示ディレクションを行いました。会場の作品配置図の制作から実際に作品を展示するまで一通りの作業を行いました。展示された作品は世界で活躍するアジアのクリエイター達の作品で学生は多くの刺激を受けました。



アニメーション領域の学生たちがTVアニメ『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない』にスタッフとして参加

TVアニメ『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない』。同作品は、これまでたびたびアニメ化されてきたシリーズですが、人気の高いこの第4部の映像化は今回が初めてのこと。

今回参加した学生はアニメーション領域3年生の中村 美咲さん、竹村 秀和さん、楊 晶恵さん。学生たちは第28話、29話と作画スタッフとして参加。今シリーズでは同アニメーション領域の芦谷耕平講師が原画、作画監督他で今後の話数でも参加しており、その関係から今回のスタッフ参加が実現しました。



渋谷音楽祭イベントにデザイン表現研究室の教員と学生が参加

10/22(土) 渋谷董友ビル2Fホールで行われた「渋谷MAZEKOZE LIVE ~Get in touch~」(制作:株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント)において、渡邊哲意准教授と4年生澤田千春さん、1年生安富遥さんが照明・映像演出として参加しました。同イベントは一般社団法人Get in touchの活動の一環として行われ、同法人代表で女優の東ちづるさんを司会にシンガーソングライター「佐藤ひらり」、ヴォーカルユニット「YANO BROTHERS」が出演しました。



「講師混同展 鏡の国のアリス達」展を開催

10月14日～21日にドラードギャラリー(新宿区早稲田)において、「講師混同展 鏡の国のアリス達」展を開催しました。この展示は作家の卵である同窓生(卒業生)を応援しようという企画の展示で、イラストレーション領域の作家志望の力のある同窓生と講師作品を一同に展示するもので、今回が第一回目の開催です。会場には同窓生の力作が数多く並び、見応えのある展示となりました。



HOT TOPICS



テレビアニメ「モブサイコ100」の立川譲監督が特別講義を実施

東京メディア芸術学部で、10/13(木)の授業内でテレビアニメ「モブサイコ100」の立川譲監督をゲストにお呼びし、マンガ領域ストーリー文化研究室、アニメーション領域ジャパニメーション研究室及びキャラクター表象デザイン研究室の合同企画として、特別講義「アニメ作品を創ることとは!?『モブサイコ100』『デス・パレード』のアニメ監督、立川譲さんに学ぶ!」を行いました。アニメ監督の仕事について、『デス・パレード』までの手掛けてきた作品や最新作『モブサイコ100』の魅力・表現上の特色などを話してくださいました。



デザイン表現研究室の学部生と大学院生が静岡県伊東商工会議所の個店広報力向上プロジェクトに従事

静岡県の伊東商工会議所の個店が大学生と協力し、それぞれの店の魅力を効果的に伝える方法を考えていくプロジェクト。学生たちは各店を訪れ、広報の現状やアピールポイント、掲示物、外観などの調査、および店主へのインタビューを行いました。調査結果の分析後、どのような広告媒体が各店にマッチするか検討し、実際に広報物の制作を行っていきます。実際に自分たちが制作したものが、どのような広告効果を生むのか、実体験から学んでいきました。



木津川アートに教員が作品を出展

11/6～11/20に京都府木津川市で開催された「木津川アート」に渡邊哲意准教授と田島悠史専任講師がインタラクティブ・プロジェクションマッピング作品を出展しました。作品名は『stat(u)es』。木津川市山城地域は風光明媚な土地として知られ、古来より木像のための木を生み出した地域。その「木像」をコンセプトに、「いのち」をテーマにした茶箱と観覧者の「顔」を使ったインタラクティブ・プロジェクションマッピング作品を発表しました。



進学相談会

1/28 (土) に進学相談会を開催いたします。
午前中には併せてデッサン講習会も行います。

日程: 1/28 (土)

時間: 13時~16時 (受付 12時30分~)

※デッサン講習会は9:30~12:30 (要予約)

場所: 宝塚大学 新宿キャンパス 新宿区西新宿7-11-1



入試情報

AO入学選考第4期、自己推薦入学選考第2期

【出願期間】

11月24日(木)~12月9日(金) 当日消印有効

※郵送もしくは持参

【選考日】

12月18日(日)

編集後記

12月になりました。もう今年も残すところあと1ヶ月ですね。
今月号では新宿花園神社で開催された西の市について特集しています。
西の市といったら熊手ですね。西の市の熊手は前年よりも一回り大きくするのが基本なんだそうです。商売繁盛の縁起物なので、皆さんも熊手を買ってみたいかがでしょうか。
それでは今年も良いお年をお過ごし下さい。来月号もお楽しみに!



NEWS LETTER 編集部

Editor 金澤 英樹 (本学職員)
ミネシゴ (フリーライター)
Art Director 渡邊 哲意 (本学准教授)
芦谷 耕平 (本学講師)
小野寺真央 (大学院2年)
Designer 松原 麻友 (3年)
石原亜矢子 (3年)
大泉 夏紀 (3年)
木村 奈央 (3年)

『はらぺこ新宿食い道楽』
作 画: あゆ丸 (大学院1年)
表紙テーマ『赤い靴』
作 画: 安原ジェシカ (4年)
使用画材: ペーパーカットアウト



イラストレーション領域
501教室に潜入!



船の舵のようなものが版画のプレス機。様々な道具がたくさん置いてある。

教室の後ろの本棚。たくさんの資料が並んでいる。



デッサン用の石膏像。デッサンの授業に使われる。

5階のテーマカラーであるオレンジの椅子を使っている。学生はこの場所で授業や制作を行う。

501教室は、イラストレーション領域の講義や演習授業で使っている教室です。
主に1年生から3年生が授業で使用しています。
デッサン用の石膏像や版画用のプレス機など、イラストレーションの授業で使う専門的な機材がそろっています。
他にも、木製パネルや工具、イーゼルなどもあり、まさに美術室のような教室と言えます。
教室の後ろには本棚があり、そこには絵に関する参考書がずらりと並んでいます。本屋ではなかなか見ないような特殊な資料などもあるので、学生は課題の参考に使ったり、自主制作などの資料として活用しています。
この教室は普段、主に授業に使っていますが、授業が無い時には、学年を問わず様々な学生が自由に制作をできる場所になっています。